

ギャンブルینگ問題援助職の養成へ

リカバリーサポート・ネットワークが全国で展開

全日遊連の支援によって、06年4月に設立された第三者機関によるパチンコ依存問題の相談機関、リカバリーサポート・ネットワーク（RSN・西村直之代表）では、今年度から「ギャンブルینگ問題の援助職・サポーター養成講座」を全国で展開すると発表した。相談の中で培ってきた経験を元に、これら問題に携わる関係者などにノウハウを伝えることで、援助職者やサポーターの養成を図ることが狙い。6月29日の地元・沖縄を皮切りに全国数カ所で開催予定で、沖縄以外の場所や日時は現在、調整中という。

講座ではギャンブルینگ問題の総論のほか、「職場におけるギャンブルینگ問題の発見と見きわめ」「借金、多重債務とギャンブルینگ問題」「当事者活動から見たギャンブルینگ問題」などをテーマに、それぞれの専門家による解説が行われる。回復者



RSN
西村直之代表

による体験談も予定されている。受講対象者はギャンブルینگ問題に関わる医療、保健、福祉、司法、金融機関関係者などのほか、ホール関係者も受講できる。

また、電話相談開設から3年目を迎えたRSNでは、この度、過去2年で受けた1835件に上る電話相談の内容をデータ化した報告書をまとめた。報告書では相談件数やコーラーの各種分類ごとのデータのほか、問題化した時期、のめり込んでいる機種、パチンコ以外のギャンブルや借金との関係状況などをまとめている。

報告書によると、電話を受けた相談のうち、71%のケースで県精神保健福祉センターやギャンブラーズ・アノニマスなどの相談機関を紹介した。RSNでは可能な限り、相談者のニーズに合うような既存の機関や施設を探すように努力しているというが、そうした機関が相談者の居住地域にはなかったりするケースもある。そのためRSNでは、今後は相談対応のレベル向上のほか、全国的な問題啓発が必要との認識を示している。